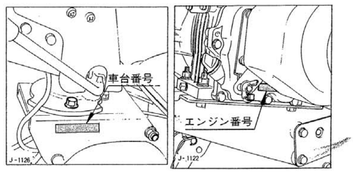
はじめに

このたびは本製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は，管理機の正しい取扱い方法，定期的な点検及び整備について説明してあります。
本機のすぐれた性能を充分に発揮して，安全に快適な運転をしていただくため，本書をよくお読みいただくとともに，日常の保守点検，整備，給油などを充分に行なって末長くご活用ください。
なお，本製品についてより能率よく農作業を行なっていただくために，不断の研究成果を新しい技術として，ただちに製品に取り入れておりますので，お手元の管理機と，この説明書に多少の違いが生じる場合もありますが，あらかじめご了承くださいますようお願いいたします。

サービスと保証

この管理機には，保証書が添付してあります。詳しくは保証書を御覧ください。
なお，御使用中の故障や御不審な点及びサービスに関する御用命は，お買いあげいただきました御購入店・農協又は当社サービスステーションに，それぞれ「御相談窓口」を設けておりますのでお気軽に御相談ください。
そのさい (1)管理機名称と車台番号，
(2)エンジン名称とエンジン番号，
を合わせて御連絡ください。



◆安全鑑定適合番号
クボタT42……602013

主要諸元

	型式	T42
機体寸法	全長(mm)	1615
	全幅(mm)	610
	全高(mm)	1165
	軸距(mm)	250～550
重量		93 (ロータリなし)
エンジン	名称	GS200－T
	形式	空冷4サイクル1気筒立形ガソリンエンジン
	総排気量(cc)	201
	出力／回転速度(馬力／回転数)	3.8/1800(クランク軸3600)(最大5.2)
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量(ℓ)	3.8
	点火方式	無接点式マグネト点火
	始動方式	防水式リコイルスタータ
タイヤ		4.00－7
主クラッチ方式		ベルトテンション
操向クラッチ方式		テーパ式爪クラッチ
走行速度(km／時)	前進	6段
	後進	2段
PTO回転速度(回転/分)		低763，高1502

標準付属品

品名	数量/台	備考
10－12 スパナ	1	+，－差換え式
14－17 スパナ	1	
プラグボックス	1	
ドライバ	1	
プライヤ	1	
じょうご	1	
油差し	1	
ユニバーサルヒッチ	1	ユニバーサルヒッチ用
ウエイト止めボルト	2	
ナット(M12)	4	
ボルト(M12×45)	2	
取扱説明書	1	安全五憲章入り
純正部品表	1	
保証書	1	
納入品安全説明書	1	
安全注意ポスタ	1	
安全憲章コンプ	1	

小型特殊自動車としての取扱い

この管理機にトレーラを取付けて道路を走行すると，道路運送車両法により小型特殊自動車になるので，運輸大臣の型式認定を受けています。

■小型特殊自動車取得の届出とナンバプレートの取付け

トレーラを取付けて道路を走行する場合は，市町村条令により，その取得を市町村役所に届出，ナンバプレートを取付けなければなりません。
(詳細な手続きは市町村により相違がありますが，役所窓口での簡単な手続きでできます。)

❶小型特殊自動車取得の証明書など(御購入店・農協で発行)に，軽自動車税（年間標準税額1000円）を添えて，市町村役所に届出る。
❷届出が済むと，ナンバプレートが交付される。
❸ナンバプレートを車体の取付け位置に取付ける。

■運転免許

(1)トレーラを取付けて道路を走行する場合は，小型特殊自動車の運転可能な免許が必要です。
(2)道路走行時は，必ず運転免許証を所持してください。

■自動車損害賠償責任保険のお勧め

万一の交通事故補償に備えて，任意保険に加入されることをお勧めします。

■道路走行時の注意

(1)型式認定時の寸法を越えるトレーラを取付けないでください。
(2)ブレーキのきかないトレーラは使用しないでください。
(3)バックミラー・ホーンを別途購入の上，所定の位置に取付け，後部反射器・ヘッドランプと共に確実に作用するか点検し，整備してください。
(4)最高速度は15km／時以下です。車輪やプーリを交換して，これ以上の速度が出るようにしないでください。
(5)運転者のほかは乗車させないでください。
(6)トレーラの積載重量と寸法を守りましょう。
(7)動力取出し軸にカバーをしてください。

■小型特殊自動車とは，

カタピラを有する自動車，農耕作業用自動車及び運輸大臣の指定する特殊な構造を有する自動車で，下欄に該当する自動車。

車体の大きさ	全長	4.70m 以下
	全幅	1.70m 以下
	全高	2.00m 以下
最高速度		15km／時以下
原動機の総排気量		1500cc 以下

管理機

(Z)T42

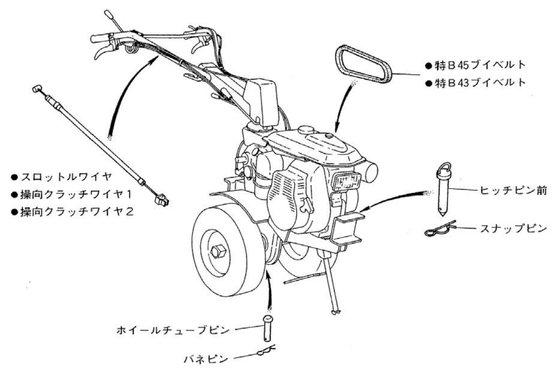
取扱説明書

久保田鉄工株式会社

本社：大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号 〒556-91 電(06) 648—2111
東京本社：東京都中央区日本橋室町3丁目3番2号 〒103 電(03) 279—2111
北海道支店：札幌市中央区北三条西3丁目1番地44(札幌富士ビル) 〒060 電(011) 231—8271
東北支店：仙台市本町2丁目15番11号 〒980 電(0222) 25—8151
名古屋支店：名古屋市中村区名駅2丁目27番8号(大東海ビル) 〒450 電(052) 563—1511
九州支店：福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号(住友生命博多ビル) 〒812 電(092) 451—1121
サービスステーション：
名取・名取市田高字原182番地の1 〒981-12 電(02238) 4—5151
秋田・秋田市寺内字大小路207番54 〒011 電(0188) 45—1601
水戸・水戸市千波町1954—1 〒310 電(0292) 41—3141
浦和・浦和市大字西堀字荻田1228番地 〒336 電(0488) 62—1121
新潟・新潟市上所島字上所上1番 〒950 電(0252) 85—1261
名古屋・愛知県一宮市観音町1番地の1 〒491 電(0586) 24—5111
金沢・松任市下柏野町956—1 〒924 電(0762) 75—1121
岡山・岡山市穴甘275番地 〒703 電(0862) 79—4511
米子・米子市米原6砂番地 〒683 電(0859) 33—5011
福岡・福岡市東区大字下和白字蒲地開 〒811-02 電(092) 606—3161
熊本・熊本県下益城郡富合町大字御江846の1 〒861-41 電(0963) 57—6181
高松・高松市番塚町1丁目11番23号 〒760 電(0878) 31—8171
堺製造所：堺市石津北町64番地 〒590 電(0722) 41—1121
宇都宮工場：宇都宮市平出工業団地22の2 〒321 電(0286) 61—1111
筑波工場：茨城県筑波郡谷和原村字岩野新田10番地 〒300-22 電(0297)52 5111
牧方機械製造所：牧方市中宮太池1丁目1番1号 〒573 電(0720) 40—1121
堺部品センター：堺市神南辺町2丁75—2 〒590 電(0722) 29—5501
宇都宮部品センター：栃木県河内郡河内白沢1819—1 〒329-11 電(0286) 3—1521
北海道部品センター：北海道札幌郡広島町字大曲185—27 〒061-12 電(01127) 6—2335
筑波部品センター：茨城県筑波郡谷和原村字岩野新田10番地 〒300-22 電(0297)52 5111
牧方部品センター：牧方市中宮太池1丁目1番1号 〒573 電(0720) 40—1121
クボタトラクターコーポレーション(アメリカ・カリフォルニア州)・カナダクボタトラクター販売㈱(オンタリオ州)
ブラジルクボタ鉄工㈱(サンパウロ市)・ヨーロッパクボタトラクター販売㈱(フランス・アルジャントゥイユ市)
イランクボタ㈱(ガズビン市)・インドネシアクボタ農業機械㈱(セランゴール州)・タイクボタトラクター販売㈱(バンコック市)
クボタマルスチール農業機械㈱(フィリピン・マニラ市)・新台湾農業機械㈱(高雄市)

品番62571—6521—3. N. △. 5—7. 10. Ⓐ

主要消耗部品



特別付属部品

品番	品名	備考	兼用機種
62081-8110—0	バランスウエイト完備	(1)＋(2)＝20kg	(Z)T4
62081—8120—0	バランスウエイト(1)完備	12kg(ヒッチピン付)	(Z)T4
62081—8130—0	バランスウエイト(2)完備	8kg(ヒッチピンなし)	(Z)T4
62081—8140—0	バランスウエイト(2)単完備	8kg(ヒッチピン付)	(Z)T4
62071—8112—0	ホイルウェイト完備	6kg×2コ	(Z)T4
62081—8211—0	平プーリ 75マル	エンジン側に装着	(Z)T4
62081—8212—0	平プーリ 90マル	エンジン側に装着	(Z)T4
62081—8213—0	平プーリ 100マル	エンジン側に装着	(Z)T4
62151—6163—0	バックミラー		(Z)T4
62252—5530—0	警報器完備		(Z)T4
62081—8331—0	丸ホイルチューブ 600	長さ 237.5mm丸ハブ車輪装着用	(Z)T4
62081—8332—0	丸スリーブ	長さ61mm丸ハブカルチ車輪装着用	(Z)T4
62081—8333—0	車軸スリーブ	長さ61mm六角ハブカルチ車輪装着用	(Z)T4
62081—8334—0	六角ホイルチューブ 165	チューブ長さ 165mm	(Z)T4
62081—8335—0	六角ホイルチューブ 281	チューブ長さ 281mm	(Z)T4
92312—1041—0	延長ホイルチューブ完備	チューブ長さ 606mm	(Z)T4
62088—8310—0	プーリボス完備	動力取出し用 (P.T.O軸側)	(Z)T4
62571—8410—0	延長タイヤカバー完備	代掻，トレーラー走行時	新採用予定

安全に作業するために

安全運転のために，次のことがらを必ず守ってください。

耕うん機・管理機＋安全五憲章

1．道路走行・ほ場の出入り・車への積降しのときは，必ずロータリの回転を止めます。
2．農道を走行するときは，スピードを落とし路肩に注意します。
3．ほ場の出入り・車への積降しは上りは前進，下りは後進で行ないます。
4．バックをするときは，スピードを緩め背後の障害物に注意します。
5．機体の点検・調整・整備は必ず，エンジンを止めてから行ないます。
この機械をお使いになるときは復唱してください。

1．はじめに

取扱説明書をよく読んで，機械の使い方をよく覚えてから使用してください。
そして機械を点検し，異常箇所がないか確めてから使用してください。

2．燃料の給油とエンジンの始動

(1)燃料補給をするときは，必ずエンジンを停止して行なってください。
(2)密閉した車庫内で長時間エンジンをかけたままにしておくと空気を汚し，ガス中毒を起こす危険があります。
(3)エンジンを始動するときは，クラッチを切り，主変速レバーを「中立」にしてから行なってください。

3．始動

発進するときは，周囲の安全を確かめ機械の付近に人が近づかないようにしてください。
また，バックするときには，足元・後方をよく確かめてからエンジンを低速にしてバックしてください。

4．作業中

(1)傾斜地で作業したり重い荷物をけん引するなど，無理な運転をすると機械が転倒することがあり危険です。
(2)安全カバーなどを取りはずした状態で運転すると，回転部分に巻込まれる危険があります。
(3)共同作業者がある場合は，動作ごとに合図をかわしてください。
(4)作業中は機械の近辺に人を近づけてはいけません。

5．積込み・積降ろし

(1)丈夫なすべり止めをしたアユミ板を確実に固定し，周囲に人がいないことを確認してから行なってください。
(2)積込み・積降ろし中にトラックが移動しないように，必ずトラックのエンジンを止め，サイドブレーキを確実にかけてください。

6．走行

(1)6速で道路走行中，操向クラッチは切らないでください。急旋回は危険です。
(2)下り坂では，クラッチを切ったり，変速を中立にするとスピードが出すぎて危険です。また操向クラッチを切ると逆方向に急旋回し危険です。
(3)高低差が大きいほ場への出入りは，転倒の恐れがあり，必ずアユミ板を使用してください。
(4)一般道路上では，自動車に道を譲るなど交通法規・交通道徳を守ってください。
(5)カーブでは速度を落としてハンドルを操作してください。

7．その他

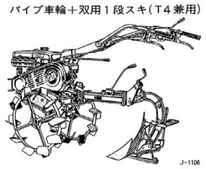
(1)次のような状態では運転しないでください。
●飲酒運転
●いねむり運転
●病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
●妊娠中の方
(2)だぶついたズボンや上着など回転部分に巻込まれやすい服装は，たいへん危険です。
(3)点検・整備・清掃などは必ずエンジンを止めてから取扱説明書に従い行なってください。
(4)作業中，または作業後に高温部分（マフラなど）に触れるとヤケドをする危険がありますので，必ず冷えてから整備・点検などを行なってください。
(5)機械を他人に貸す場合は，取扱い方法をよく説明し，あらかじめ「取扱説明書」「納入品安全説明書」を読むように指導してください。

★以上，機械の取扱いで起りがちなあやまちを未然に防いでいただくために，主だった注意事項を挙げました。これ以外にも本文の中で 安全ポイント として，その都度とり上げております。
更に，安全のポイントを抜粋した「安全注意ポスタ」・「納入品安全説明書」を別冊にして添付しておりますので，よくお読みいただいて必ず守ってください。

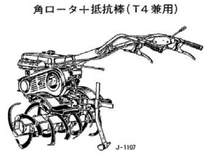
主要アタッチメント

作業	作業機組合せ	用途	変速位置	内容
耕起	スキ	荒起し	3	1.軽量で使い易く反転放てきが良い。 2.田・畑兼用で使用範囲が広い。
	角ロータ	一般耕起	4	1.畑・水田の，耕起・砕土・整地作業に適し，良い作業ができる。 2.推進力が大で安定作業ができる。
	ラグロータ	一般耕起	4	1.推進力が大で安定作業ができる。(特に傾斜地・砂地・軽しょう土・湿田での耕うんに最適) 2.分割式で作業に応じてドラムが分割できる。
砕土整地代かき	角ロータ スプリングレーキ	整地	4	1.広幅にて砕土・整地作業を行なう。 2.土・雑草のからみ付きが少ない。
	代かき車輪	代かき	4	1.浮力・推進力が大で楽に作業ができる。 2.代かき・砕土効果が良好で，土の反転性が良く代かき作業に適する。
	田打ちロータ 抵抗棒	代かき	4	1.浮力・推進力が大で楽に作業ができる。 2.取付け・取扱いが容易です。

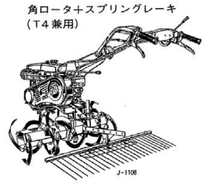
パイプ車輪＋双用1段スキ(T4兼用)



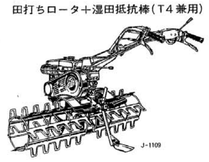
角ロータ＋抵抗棒(T4兼用)



角ロータ＋スプリングレーキ(T4兼用)



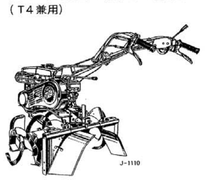
田打ちロータ＋湿田抵抗棒(T4兼用)



作業	作業機組合せ	用途	変速位置	内容
うね立てうね盛り	角ロータ うね整形板	タバコなどのうね盛り	4	1.うね形状はうね肩に肉の付いた，かまぼこ形のうねができる。
	中耕ロータリ タバコロータ 内盛り整形板	タバコなどのうね立て	1	1.うね形状はうね肩に肉のついた，かまぼこ形のうねができる。
	中耕ロータリ 2うねロータ アッシ 2うね整形板	ジャガイモなどのうね盛り	1	1.整形板との組合せにより，かまぼこうね2うねができる。
	中耕ロータリ 平うねロータ 平高うね整形板内盛り はん用平うねマルチ	レタス・トマトなどのうね盛り	1	1.うね高さ・うね幅が自在に調節でき，用途に合ったうね作りができる。 2.調節が簡単で楽に作業ができる。

中耕ロータリ＋平うねロータ＋平高うね整形板(T6兼用)

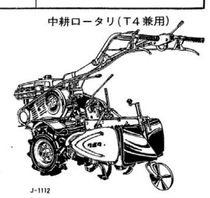
角ロータ＋土寄せ板＋うね整形板(T4兼用)



作業	作業機組合せ	用途	変速位置	内容
中耕除草	中耕ロータリ	中耕除草	1	1.うね間の中耕作業に適している。 2.補助羽根が開閉式で，うね盛り土寄せ作業に適す。
培土	中耕ロータリ タバコロータ 外盛り整形板	タバコの土寄せ	1	1.低動力で楽に有効に，土寄せ・培土作業ができる。

中耕ロータリ＋タバコロータ＋内盛り整形板(T4兼用)

中耕ロータリ(T4兼用)



作業	作業機組合せ	用途	変速位置	内容
耕起	高うねマルチ マルチ車輪	マルチ作業	1	1.シートの両端は溝を作って埋めこみながらマルチ作業ができる。 2.かまぼこ形のマルチ作業に適する。
マルチ	中耕ロータリ 高うね 同時マルチ	マルチ作業	1	1.うね盛り作業と同時にマルチ作業ができる。
	中耕ロータリ タバコロータ 内盛り整形板 はん用高うね マルチアッシ	マルチ作業	1	1.うね盛り作業と同時にマルチ作業ができる。 2.タバコの内盛り作業に適す。

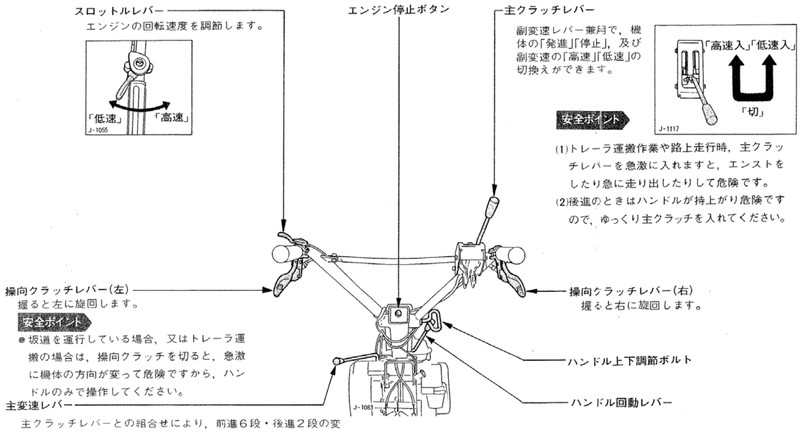
中耕ロータリ＋R角ロータ＋高うね整形板＋マルチ(T6兼用)

マルチ車輪＋マルチ(T6兼用)

作業	作業機組合せ	用途	変速位置	内容
播種	種まき ごんべえ	その他の種まき	1	1.本機への取付けがピン1本で簡単にできる。 2.播種駆動輪が大きく播種ムラがない。

種まきごんべえ(T6兼用)

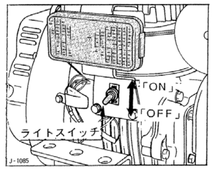
運　転　装　置　の　説　明

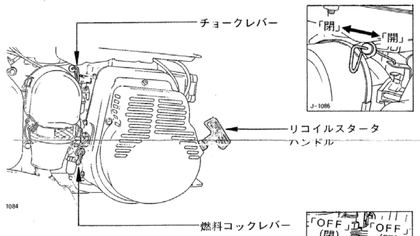


主クラッチレバーとの組合せにより，前進6段・後進2段の変速ができます。作業に適した速度をお選びください。

【注意】
●前進後進に関係なく変速が入りにくい場合は無理をせず，いちど半クラッチにして再度変速操作をしてください。

ハンドルの位置	変速段数	主クラッチレバー	主変速レバー
正位置	前進6段・後進2段	「低速入」	「5速」「3速」／前進「1速」後進「1速」／「中立」
		「高速入」	「6速」「4速」／前進「2速」後進「2速」／「中立」
逆位置	前進2段・後進2段	「低速入」	後進「1速」「中立」前進「1速」
		「高速入」	後進「2速」「中立」前進「2速」





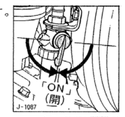
運　転　のしかた

エンジンの始動前には，必ず仕業点検を行なってください。

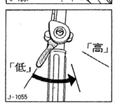
エンジンの始動

❶主クラッチレバーが「切」，主変速レバーが「中立」の位置にあることを確認します。

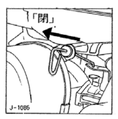
❷燃料コックを開きます。



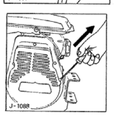
❸スロットルレバーを「高」と「低」の中間の位置にします。



❹チョークレバーを「閉」にします。
●エンジンがよく暖っているときは，チョークの操作は不要です。



❺リコイルスタータハンドルを握って，勢いよく引張ります。
●エンジンが始動したら，リコイルスタータハンドルを静かに元に戻してください。



❻エンジンの運転調子を見ながら，チョークレバーを徐々に戻します。(開く)

❼2～3分間暖機運転を行なってから，作業を始めてください。

安全ポイント
(1)マフラの排気出口方向に，燃えやすいものがないか確認してください。
(2)リコイルスタータの引張る方向に人がいないか，突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。
(3)エンジン運転中，マフラに手を触れないでください。

エンジンの停止

❶スロットルレバーを「低」にします。

❷停止ボタンを押すと，エンジンが停止します。

❸燃料コックを閉じます。

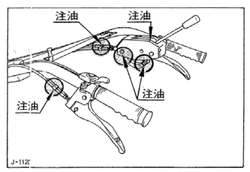
安全ポイント
●エンジン停止直後は，マフラが熱くなっていますから，手を触れないようにしてください。

注油箇所

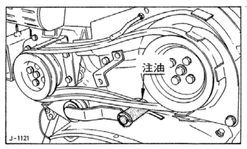
オイルの種類	給油量
クボタ純オイルG30	適量

■クラッチレバー支点

■各種ワイヤ
調節金具の個所に注油口があります。



■テンションプーリ支点軸



安全ポイント
●ベルトカバーを取りはずした場合は，必ず取付けてからエンジンを始動してください。

■その他のしゅう動部の注油
その他の各しゅう動部分には，オイルを適量注油してください。

管理機を安全に調子よく長持ちさせるには

安全ポイント　給排油・点検・調節・清掃中はエンジン停止。

仕業点検(毎日始動前の点検)

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
毎日始動前に，必ず仕業点検を行なってください。

1．前日使用の異常箇所。
2．燃料は充分か。
3．エンジンオイルの量，及び汚れ。
4．ミッションオイルの量，及び汚れ。
5．エアークリーナエレメントの汚れ。
6．タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷。
7．各しゅう動部(主クラッチ，テンションアーム支点軸，ワイヤなど)にオイル切れがないか。
8．各部の油もれ。
9．各部の損傷，及びボルト，ナットの緩み。

ならし運転
(最初の10アール程度使用まで)

この期間中は各部になじみをつけるため，エンジンを高速回転させたり，過酷な使用はさけ，無理をさせないようにしましょう。

燃料の給油

安全ポイント
(1)給油中はエンジン停止・火気厳禁，くわえ煙草での給油はしないでください。
(2)燃料がこぼれたときは布切れなどでふきとってください。

前スタンドを立てて機体を安定させ，給油口からこし網を通して給油してください。

燃料の種類	規定容量
自動車用レギュラガソリン(無鉛)	3.8ℓ

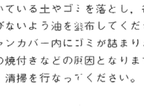
【注意】
●燃料タンク内にゴミや水が混入しないように注意してください。

オイルの点検と交換

項目	点検方法	交換 第1回め	交換 以後	オイルの種類	規定量
エンジンオイル	エンジンを水平にして，給油口の口元まで。	20時間使用後	50時間使用ごと	クボタ純オイル(ガソリン・灯油エンジン用) 冬G20，夏G30	0.6ℓ
ミッションオイル	スタンドを立てた状態で，検油口からあふれ出るまで。	50時間使用後	年1回	クボタ純オイルM90又は，M80B (ミッション用)	4.0ℓ

オイルを交換する場合は，まず旧油を排出しますができるだけケース内のゴミも同時に排出させるために，運転使用後，オイルが暖まっている状態のとき，排出してください。

■エンジンオイル
◆給油のしかた
前スタンドを立てて，スタンドの下に台をおき，エンジンを水平にして，給油口の口元まで入れてください。



【注意】
●粗悪なオイルを使用しますと，エンジンの寿命を急激に縮めますので，御購入店・農協でクボタ純オイルG20又はG30と指定の上，お求めください。

◆排油のしかた
前スタンドを立てて，排油プラグを取外し，排出してください。

■ミッションオイル
◆給油のしかた
前スタンドを立てた状態で給油プラグをはずし，検油口から油があふれるまで給油してください。

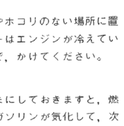
◆排油のしかた
できるだけ機体を後に傾けるようにして，排油プラグを取りはずし，排油してください。

使用後の清掃

使用後は必ずその日のうちに清掃を行ない，各部に付いている土やゴミを落とし，各しゅう動部は錆びないよう油を塗布してください。
特にファンカバー内にゴミが詰まりますと，エンジンの焼付きなどの原因となりますので，よく点検，清掃を行なってください。

フューエルフィルタの清掃

フィルタ内に水やゴミがたまっているときは，フィルタポットを取外し，よく清掃してください。



【注意】
●取付け時，燃料もれのないように完全に締付けてください。

エアークリーナの清掃

止め金を外し，エレメントを取出して清掃を行なってください。(50～60時間使用ごと)
(1)内側エレメントは，叩いてホコリを落します。
(2)外側スポンジは，ガソリンで洗浄した後エンジンオイルに浸し，固く絞って使用します。
(3)ボットにたまったゴミは，止め金を外して掃除します。
(4)エレメントは，6回清掃又は1年ごとに交換します。

長期格納時の手入れ

使用後の清掃と同じく，各部に付着している泥やゴミを水で洗い落とし，各部の水分を乾いた布などで充分にぬぐい取り，摩擦しゅう動部，及び塗料のはがれたところなどには，さびないように油脂を塗布してください。
その他，次の事項について手入れしてください。

(1)主クラッチレバーは「切」の位置にして，保管してください。
(2)燃料を完全に抜き取ってください。
(3)エンジンオイルを交換し，各部をきれいに清掃します。
(4)エアークリーナエレメントは，きれいに清掃してください。ゴミがこびりついて次回の使用の際，清掃が困難になります。
(5)エンジンのシリンダ内に湿気が入ると，来期の始動が困難になるので，リコイルスタータハンドルを引張って，圧縮位置にしておいてください。
(6)カバーをかけ，湿気やホコリのない場所に置いてください。カバーはエンジンが冷えていることを確認した上で，かけてください。

■燃料の抜取り
使用後，燃料をそのままにしておきますと，燃料タンクや気化器内のガソリンが気化して，次の始動が困難になることがあります。
気化器内のガソリンは矢印の排出ねじをゆるめてガソリンを抜取り，燃料タンク内はパイプなどを使用して全部抜取ってください。

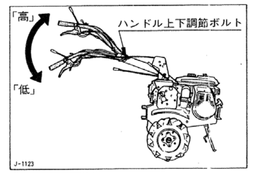
安全ポイント
●燃料がこぼれたときは，布切れなどでふきとってください。

各　部　の　調　節　の　しかた

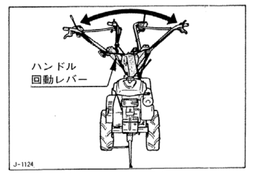
安全ポイント　点検・調節・取付け・取外し中はエンジン停止。

ハンドル位置の調節

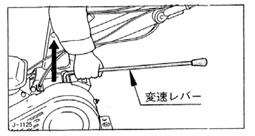
■ハンドルの上下調節
ハンドル上下調節ボルトをゆるめ，お望みの高さに調節してください。



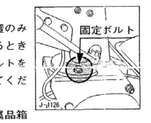
■ハンドルの回動
❶ハンドル回動レバーを持上げることにより，左右それぞれ1段階に角度の調節ができます。



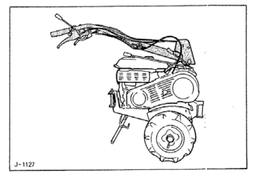
❷変速レバーの根元を持上げて，ハンドルを調節した位置へ合わせてセットしてください。



【注意】
●ハンドル中央位置のみで長期間使用するときは，必ず固定ボルトを締付けて使用してください。
固定ボルトは付属品箱の中に入っております。

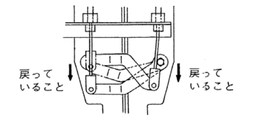


■ハンドルの逆向き
❶変速レバーを「中立」にします。
❷ハンドル回動レバーを持上げて，ハンドルを左方へ回動すると，逆向きになります。
❸変速レバーの，根元を持上げて逆向きにします。



❹ハンドルを前向きに戻すときは，上記の逆の順序で行なってください。

【注意】
(1)操向クラッチの左右は，ハンドルの回動により，自動的に切換わりますので，操向クラッチワイヤは左右逆に取換える必要ありません。
(2)操向クラッチが確実に戻っていないときは，けん制が働いて，ハンドルの回動ができません。このような場合は，操向クラッチを確実に戻してください。

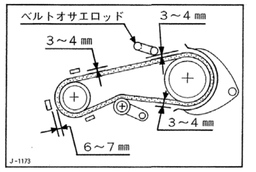


(3)回動中は，操向クラッチレバーは握らないでください。
(4)変速レバーが3・4・5・6速に入っている場合は，けん制カムにて回動できません。「中立」に戻してください。
(5)ハンドルを逆向きにした場合は，高速側に変速できません。(高速けん制装置)

主クラッチの調節

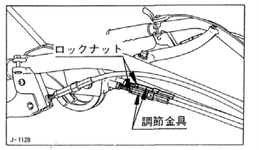
主クラッチレバーは，運転操作の源となる重要なレバーですので，確実に断続できるように，次のことがらについて調整してください。

■ベルト押さえの調節
ベルトオサエロッドは，主クラッチ㋑の時，ベルトに接触しないようにし，主クラッチ㋺の時，軽く押える程度に調整して低速側，高速側のベルトのつれまわりがないようにして下さい。

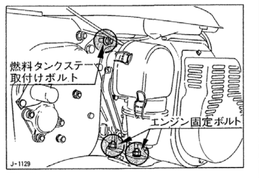


■主クラッチワイヤ
副変速レバーを入れてもベルトがスリップする場合，又，副変速レバーが重すぎる場合などには，主クラッチワイヤの調節金具でベルトの張り具合を調節してください。

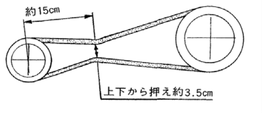
ベルトがスリップする場合	調節金具を長くする。
主クラッチレバーが重すぎる場合	調節金具を短くする。
ベルトの張り強さ	主クラッチを入れた状態で，ベルト中央部を指で押さえて約1cmたわむ程度。



■エンジン前後によるベルトの調節
ベルトが伸びたり，又は新しいベルトに取換えた場合などにおいて，主クラッチワイヤやベルト押さえ金具で主クラッチの調節ができない場合は，エンジンを前後に移動調節できますので，エンジン固定ボルト4本と，燃料タンクステー取付けボルトをゆるめて調節し，調節後は確実にボルトを締付けてください。



■新しいベルトに交換する場合
新しいベルトに交換する場合は，高低2本のベルトを同時に交換し，ベルトのたわみ代は，エンジンフーリ側から約15cmの位置で約3.5cmになるよう，エンジンを移動させて調節してください。



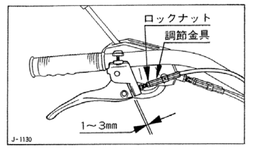
安全ポイント
(1)調整と各部の締付けが終ってからの確認は，主クラッチを切り，エンジンを始動して，主クラッチを「入」のときベルトが作動し，「切」のときに停止するか確認してください。
(2)調整，掛換えが終わったら必ずベルトカバーを取付けてください。

操向クラッチの調節

操向クラッチレバーを握っても，操向クラッチが切れにくい場合，又レバーを放しても入りにくい場合は，ワイヤ調節金具のロックナットを緩め，調節金具を回して調節してください。

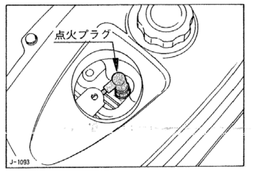
切れにくい場合	調節金具を長くする。
入りにくい場合	調節金具を短くする。
適正調節量	操向クラッチが完全に入っていることを確認してレバーの遊びが1～3㎜程度。

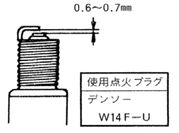
調節後は，ロックナットを確実に締付けてください。



点火プラグの調節・清掃

タンクカバー締付け用マスコットネジをはずしてタンクカバーを外し，プラグ用ボックススパナでプラグをはずして，清掃してください。
電極間隔を調節する場合は，電極間隔を0.6～0.7㎜に調節してください。
点検調節は6カ月に1回，行なってください。

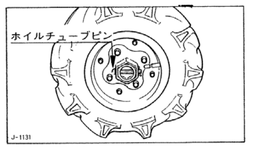




【注意】
(1)締付け時は，ネジ山をつぶさないよう，はじめ手で締込んでから，ボックススパナで締付けてください。

車輪間隔調節と車輪交換

作業条件に応じて，適当な車輪間隔調節と車輪交換を行なってください。
車輪は，ピン一本を通して取付けてありますので，ホイルチューブピンを抜いて車輪間隔の調節や，交換を行なってください。



タイヤの空気圧

空気圧が高すぎても低すぎてもタイヤの寿命を縮めますから，定期的に空気圧を調べて，適正になるよう調節してください。

適正空気圧	1.2kg/㎠

空気入れはエアーコンプレッサか高圧手押しポンプを用いてください。